

1	第28回神奈川県高等学校総合文化祭放送・情報部門大会 実施要領(増強版)
---	---

1. 目的

神奈川県高文連加盟校のどんな生徒でも参加できるような大会を目指す。生徒が自らの感性を生かして、題材を選びアナウンス・朗読・番組で表現し、発表する。さらに多くの学校の生徒がさまざまな場で自分を表現できるように、大会を運営する。また生徒の主体性を尊び、大会順位にとらわれずに生徒間の交流を重視した大会とする。

2. 主催・主管

主催：神奈川県高等学校文化連盟
 神奈川県高等学校視聴覚教育研究会
 神奈川県教育委員会

主管：神奈川県高等学校文化連盟放送・情報専門部
 (神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会)

後援：tvkテレビ・FMヨコハマ・ラジオ日本・朝日新聞社横浜総局・神奈川新聞社
 毎日新聞横浜支局・読売新聞横浜支局・日本ビクター(株)・横浜デザイン専門学校
 神奈川工科大学

3. 参加資格

2013年11月現在、県高等学校文化連盟加盟校に在籍している1・2年生とする。
 ただし情報部門への参加は3年生も可とする。※「部員」である必要はありません

4. 日時

2013年11月17日(日)	9:00~17:00
・総合受付	9:00~ 9:30
・作品提出(会場受付)	9:10~ 9:40
・審査 予選(アナ朗のみ)	10:00~12:00
・情報部門審査 本選	10:00~12:00
・審査 アナ朗本選出場者発表	13:00
・審査 本選(アナ朗)	13:15~15:00
・審査 本選(AP・VM)	13:00~15:00
・閉会式	16:00~17:00

5. 会場：神奈川県立 弥栄 高等学校

6. 部門・参加本数・参加費用

	アナウンス	朗 読	オーディオピク チャー	ビデオメッ セージ	情報課題	情報自由
各校参加 本数上限	2本	2本	2本	2本	2本	2本
参加費用	無 料					

7. 決勝進出本数

アナウンス・朗読 各24人

発表は、1時より決勝実施会場受付にて行う。

8. 審査・審査基準

- ①大会審査のため、大会審査委員長をおく。
- ②各部門とも、役員校推薦の教員と特別審査員による審査とする。
- ③特別審査員は、主催・主幹・後援各団体等より推薦されたものから選出する。
- ④審査の観点に基づき、審査を行ない規定違反の場合、原則として減点・失格の対象となる。
- ⑤詳細は、審査員および大会審査委員長の協議による。

9. (a) 参加申込 (放送部門)

- ①期日：2013年10月12日(土)
- ②会場：神奈川県立 弥栄 高校
- ③時間：参加申込 13:30～14:00
- ④提出物：申込用紙・領収書 (要校長印・顧問印)
出場カード および 電子データが入力されたCD

注1) 郵送などによる参加申込は受け付けられない。

注2) 提出物については、くれぐれも間違いや忘れ物のないよう、慎重に準備し、顧問の確認を受けること。

(b) 参加申込 (情報部門)

電子メールによる「参加申込書」の送付とする。

- ・受付期間：10月13日(日)～11月10日(日)
- ・電子メールでの送信時には「校長印」は必要なし
- ・大会当日に校長印が押してある参加申込書を持参する。
※校長印がない学校は大会に参加できません。注意してください。

送付先メールアドレス： h-kaifu@pen-kanagawa.ed.jp

参加申込書は

<http://kanakousiken.nomaki.jp/gakushu/joho13/index.html>

から取得してください。(「集まれ!放送委員会」から検索できます。)

※情報部門のみに参加する学校は10月12日の説明会への出席は必要ありません。

10. 大会当日の受付

- ①総文祭部門受付 9:00～9:30
受付でプログラムを受け取り、審査会場・番号を確認して
封筒・スクリプト(アナ朗2部番組1部・情報は作品のみ)・CD-R・DVD-Rに記入する。
※情報部門に参加する学校は封筒に校長印が押してある参加申込書を同封すること
- ②封筒提出 9:10～9:40
記入を終えた作品封筒を、各会場受付に提出する。

11. 表彰

教育長賞 アナウンス・朗読・AP・VM 1位 (内1部門は 県知事賞に差替)
高文連会長賞 アナウンス・朗読 2位～6位、AP2位、VM2位～3位
情報課題・情報自由 1位

相鉄賞 情報課題・情報自由 2位～4位

神奈川県立大学賞 情報課題・情報自由 1位

(教育長賞・高文連会長賞・相鉄賞は、1月実施の県高文連総合閉会式にて表彰)

高視研会長賞 アナウンス朗読 1位～12位、AP・VM1位～6位、情報1位～4位

※表彰数は参加本数により変動します

12. 上位大会への推薦 (放送部門のみ・情報部門は上位の大会がありません)

2014全国高等学校総合文化祭茨城大会 (2014年8月実施)へ推薦されるもの
アナウンス・朗読 各3名 AP 1作品 VM 2作品

※但し、同一校から同一部門に推薦される本数は1名・1本とする。

また、前年に全総文祭に推薦されたものは、同一部門では推薦されない。

2013関東地区高校放送コンクール茨城大会 (2014年1月26日実施)

アナウンス・朗読 各3名 AP 1作品 VM 1作品

※但し、2014全国高等学校総合文化祭茨城大会へ推薦されたものを除く

14. 神奈川県高等学校総合文化祭放送部門諸規定

※次年度の全国総合文化祭放送部門参加要領に準ずる。

全国総合文化祭放送部門参加要項（2014茨城大会） 参照

A アナウンス部門

- ①内容： 神奈川県地域の話題から、全国の仲間に伝える内容のオリジナル原稿を作り発表する。
校内の話題は不可。
JPEG形式のデジタル静止画像（5画像以内）を併用する。
写真はインターネット等からの転用ではなく本人もしくは部員が撮影したものとする。
画像編集ソフトを用いて複数の写真を組み合わせたり文字を入れたりすることは可とする。
- ②時間： 1分30秒以内。番号、学校名、氏名を含む。
- ③審査方法： 実演発表形式の100点法審査とする。
- ④計時： 第1声より読み終わりまで
- ⑤ラベル： CD本体に部門名学校名氏名を記入すること。
- ⑥規格： JPEG形式デジタル静止画像 **（解像度1024×768ピクセル以下とすること）**
 - ア) プロジェクター（1台）よりパソコンからデジタル静止画像を投影。
 - イ) 画像データはCD-ROMにより提出。
 - ウ) 画像投影は発表者以外の自校生徒が操作。
 - エ) ファイル名は神奈北高校なら「kanakita01」「kanakita02」…と投影順に附る。
- ⑦原稿はA4（A4用紙を用いて、NHK大会形式でも可。また内容がわかるものならどのような様式でも可）
- ⑧審査の観点
 - a) 原稿点 （素材の選び方・文章表現の確かさ・内容の深さ）
 - b) アナウンスの技術点（マイクの使い方・発声・発音・アクセント・イントネーション・プロミネンス・テンポ・ポーズの取り方・内容把握・表現の仕方）

B 朗読部門

- ①内容： 神奈川県にゆかりのある作家及び作品の中から原文のまま一部選んで原稿とする。
CDによる効果音やBGMを併用することができます。
デジタル静止画像は使用できません。
- ②時間： 2分以内。番号、学校名、氏名、作者および作品名を含む。
- ③審査方法： 実演発表審査とする。
- ④使用CD： 一本のCDに1作品分を再生順に録音したものとする。
- ⑤再生： SE・BGM再生は発表者以外の自校生徒が自校から持ち込んだ機材を用いて操作する。
- ⑥計時： 第1声より読み終わりまで
- ⑦ラベル： CD本体に部門名学校名氏名を記入すること。
- ⑧原稿はA4（作者名と朗読内容を記入してあればどのような様式でも可）
- ⑨ **「制作意図」を添付し「作品と神奈川県とのかかわり」を簡単に記入すること。**
- ⑩審査の観点
 - a) 原稿点 （作品の選び方・朗読部分の抜き出し方・適切な抽出量）
 - b) 朗読の技術点（マイクの使い方・発声・発音・アクセント・イントネーション・プロミネンス・テンポ・ポーズの取り方・内容把握・表現の仕方）

C オーディオピクチャー（AP）部門

- ①内容：神奈川県地域に関する話題を取り上げ、それを全国に伝える未発表の作品。
CDによるステレオ音声とJPEG形式のデジタル静止画像（25画像100MB以内）を併用する作品。ドキュメンタリー形式、ドラマ形式など手法は問わない。
画像は写真のほかに、絵や文字を使用することができる。
他に権利のある著作物を使用する場合は所定の許諾をとり、原稿に添付すること。
- ②時間：5分以内。
- ③使用CD：一本のオーディオCDに1作品分を再生順に録音。また画像は別のデータCDに保存
オーディオCDと画像CDが区別できるようにCDに明記すること。
- ④録音・再生：ステレオ再生。
- ⑤計時：オーディオCDの音声が始まったところから、オーディオCDの音声を終了したところまで。
- ⑥ラベル：CD本体に部門名、オーディオ・データの別、学校名、氏名を記入
- ⑦審査方法：音声を流しながら、自校生徒によるスライド操作によって発表し100点法により審査する。
- ⑧原稿：原稿はA4（内容がわかるものならどのような様式でも可）
- ⑨規格：JPEG形式によるデジタル静止画像。
 - ア) プロジェクタは1台。
 - イ) 25画像以内、
 - ウ) 画像データはCD-Rに保存。
 - エ) ファイル名は神奈北高校なら「kanakita01」「kanakita02」…と投影順に附る。
- ⑩審査の観点
 - a) テーマ点(素材の選び方・APという特性を生かした題材・効果的な表現)
 - b) 製作の技術点(製作の手法・取材の方法や努力・企画と構成・演出と編集・撮影、録音の技術・アナウンスやナレーションの技術・音楽や効果音の使い方・画像に合った音声の使い方)

音源

権利が現存している音源については、正規の手段を用いて許諾申請をすること。
ネット音源についてはこの大会での使用確認がとれたものについては使用を認める。

D ビデオメッセージ（VM）部門

- ①内容：神奈川県地域に関する話題を取り上げ、それを全国に伝える未発表の作品。自校オリジナルのビデオ作品。
- ②時間：5分以内。前後に5秒のテストパターン（形式は自由）を入れる。
- ③計時：番組本体についてのみ行なう。
- ④規格：DVD-Rビデオ形式とする。場合によってはminiDVも可とするが、再生機を持参すること。
神奈川大会ではブルーレイは不可とします。
- ⑤ラベル：DVD本体にマジック等で部門名・学校名・氏名を記入。
- ⑥原稿：原稿はA4（内容がわかるものならどのような様式でも可）
- ⑦審査の観点
 - a) テーマ点(素材の選び方・VMという特性を生かした題材・効果的な表現)
 - b) 製作の技術点(製作の手法・取材の方法や努力・企画と構成・演出と編集・録音、録画の技術・アナウンスやナレーションの技術・音楽や効果音の使い方・などビデオ制作にかかる製作技術)

音源

権利が現存している音源については、正規の手段を用いて許諾申請をすること。
ネット音源についてはこの大会での使用確認がとれたものについては使用を認める。

15. 原稿に関する規定

- ①原稿はA4（内容がわかるものならどのような様式でも可）
- ②作品1本（1人）についてアナ・朗は2部、番組部門は1部提出する。
- ③原稿と 作品 を角3または角2の封筒に入れる。
- ④封筒表書の見本

<アナウンス、朗読>

作品名	作者名	氏名	学校名	朗読部門
こころ	夏目漱石	高橋圭三	県立△○高等学校	[13]番

<AP・VM>

制作代表者	再生時間	タイトル	学校名	AP部門
神奈川次郎	4分40秒	おお青春	県立神奈川高等学校	[22]番

注意1 アナウンス部門は、作者名・作品名は不要。

注意2 []のなかは、大会当日、プログラムを見て記入する。

16. 諸注意

大会当日の運営に関することは、すべて引率教員を通して本部に申し出ること。

作品の返却は、閉会式後に行う。

ゴミは会場に残さず各自で自宅に持ち帰ること。

18. 神奈川県高等学校総合文化祭情報部門諸規定

a. 発表方法

- (1) 発表内容は、次のテーマから題材を選択しプレゼンテーションにまとめる。
課題部門. 「将来の情報技術の活用について」
※携帯電話・インターネット・コンピュータの未来の活用方法など10年後、
20年後を創造して発表してください
自由部門. 高校生活に関連する内容
※進路のこと、学校のこと、友情についてなど高校生の発想で自由にテーマを決めて
発表してください。
- (2) 発表時間：準備・片付けを含めて8分以内とする。
- (3) 参加形態：すべて団体扱いとする。団体名の届け出がない場合は「学校代表」とする。
- (4) 発表形式：スクリーン1画面によるパワーポイントによるプレゼンテーションとする。
ビデオをスライドに含めることは可とするが、それが主体となる発表は不可とする。
1本につき発表者は3名までとする。
- (5) 補足：会場には、以下の発表機器を用意する。
 - a. ノートパソコン 2台
 - b. Windows 7 SP1
 - c. PowerPoint 2010、MediaPlayer12、InternetExplorer9(ネットワークへは未接続)
 - d. マイク2本
 - e. 電気スタンド
 - f. 指し棒(またはレーザーポインタ)

b. 審査基準

- a. 発表の内容について(研究・調査を行った上での優れた内容であったか)
- b. 発表について(内容を的確に伝えることができたか)
- c. プレゼンテーション資料について(発表に適した表現豊かなスライドが作成されているか)

c. その他

著作権処理は、各学校で大会開催までに行い、大会運営時には問題の無いように適切に処理すること。

特に、音楽素材を使用する場合は、著作権フリー素材を用いて作成すること。

他のコンテスト等に応募した作品を、この大会にそのまま出品することはできないので注意すること。